

# 学部学科適性試験

実施学部	文学部
実施学科	史学科
試験時間	75分
試験概要	歴史学をめぐる試験

(この問題冊子は22ページ、10問である。)

## 受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙1ページ目の左上に氏名と受験番号を記入し、所定のマーク欄をぬりつぶすこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。
5. マーク式の解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 記述式の解答は、各解答欄にていねいに記入すること。
8. 訂正する場合は、消しゴムでていねいに消したうえで、消しきずはきれいに取り除くこと。
9. 解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
10. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
11. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
12. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

次の文章〔A〕〔B〕〔C〕を読んで、あとの設問に答えなさい。

〔A〕

18世紀末、清を訪れた ア は、北京<sup>(あ)</sup>について次のように述べている。

北京の広さはウエストミンスターとサウスウォークを含めたロンドンよりも、少なくともその3分の1は小さいだろう。といってもやはり世界最大の都市の一つであるし、その城壁や城門から見ても、町のさまざまな区域の配列のされ方や、街路が広く整然としていること、牌楼\*の堂々たること、宮殿が数多く、かつ壮麗なることからいっても嘆賞に値すること間違いない。長さは1リーグ〔3マイルに相当〕に満たないほどで、幅は100フィート近く、主として商人が住んでいる街路が2本ある。商人の店舗と倉庫は、おおむね絵具と金ぴかとワニス塗りの限りを尽くした装飾でこってりと飾り立てられている。高位の人たちの邸宅はたいがい裏通りの狭い道路に面している。私が住んだ邸宅は、城壁近くにあり、建つてからあまり年数が経っていなかった。

ここに記録されているのは イ の姿である。中国では古くから支配の正統性や支配者の想定する秩序を目に見える形に置き換えた都市の建設が志向された。このような都市は、儒教の古典である『周礼』に記されたプランを理想としながら、北魏(4世紀後半～6世紀前半)の都の平城・洛陽<sup>(い)</sup>において発展をとげ、唐の都・長安に継承された。さらに周辺<sup>(う)</sup>の東アジア各地域の首都建設のモデルとなったのである。北京は13世紀後半に、フビライの命により建設された大都を原型とするが、建設にあたり採用されたのはやはり中国の伝統的都市プランであった。

一方、中国には交通、立地環境の制約によって伝統的プランから離れた都市も存在する。寧波<sup>(え)</sup>(唐宋時代の明州)などは極めて実情に則して形成された都市であった。中国では唐代以降、海路で中国に至るアラブ・イラン系のムスリム商人が増え華中・華南の港町が発展したが、宋代に東アジア諸地域間の海域交易が活発になると、その要地として寧波が浮上した。周辺の陶窯で生産される青磁<sup>(か)</sup>は重要な交易品であった。寧波<sup>(き)</sup>は甬江・余姚江・奉化江の合流点(三江口)に置かれた交易港に隣接して建設されたため、地理上の制約をうけて城壁に囲まれた都市全体が卵形を呈している。交易港につらなる都市の東側には貿易や海運にかかわる商工業や産業が集中したが、都市の北

側から西側にかけては、官僚や士大夫などが居住する「山の手」が形成された。富と情報が集まる寧波はまた、多くの知識人を育み、月湖のまわりにはこうした人々の書院が建ち並んだ。なかでも明代の官僚である范欽が蔵書を保管するために建設した天一閣<sup>(ク)</sup>には30万冊におよぶ書物が収められている。

\* 牌楼：大通りの要衝などに建てられる装飾用または記念用の建築物。

## 〔B〕

近代以前の日本の都市のかたちとして、すぐに想起されるのは都城(宮都)と城下町であろう。「碁盤の目のような」と形容される街区のあり方は、古代の都城に由来すると考えられがちだし、近世の城下町から続く伝統的な景観をのこす都市は多い。しかし、都城と城下町のみを、前近代日本の都市の類型とするわけにはいかない。

都城が実際に建設されたのは、7世紀の末から9世紀初めまでのことで、その後は造営されなかった<sup>(カ)</sup>。平城京であった奈良は、興福寺・東大寺・春日社といった大寺社と、それらの門前町との複合都市として発展する。平安京は、当初から右京が都市化せず、都城のプランが実現されたことはなかったが、帝都であり続け、10世紀以降、かつての左京の一部と京外の寺社の門前町からなる中世都市へと変容する。摂関家の拠点であった宇治<sup>(キ)</sup>、院の離宮が造営された白河・鳥羽、さらに室町殿の北山など、いわば副都心も形成され、それらの複合体としての京都<sup>(ク)</sup>は、中世日本最大の都市であった。

中世前期には、各国の府中(国府)や守護所、有力武士の拠点も都市化した。武家の本拠が都市として発展した先駆は、奥州藤原氏の平泉<sup>(ク)</sup>であろう。その影響もうけながら京都とならぶ首都機能をもつ都市へと成長したのが鎌倉である。

こうした政治都市以外に、中小の都市も成長した。13世紀には、「市」・「宿」・「津」・「湊」といった都市的な場が各地に出現し、相互に結びつき、交通や物流のネットワークを形成する。中世の市(市場・市庭)は、ウ。ところが、中世の市の実態を探ると、市の敷地・施設を保有する住人や金融業者の住居、問屋・商人の泊る宿、常設の店舗などが、市の周囲に町場を形成し、「市町」すなわち小都市となっている場合が見られるのである。

こうした市・宿・津・湊といった中小都市の数は、15世紀以降、一段と増え、それ

らを結節点とするネットワークが発展し、大小の地域経済圏が成立する。守護城下町や戦国城下町は、そうした地域経済圏の中核となるが、同時期、山科や大坂<sup>(せ)</sup>に代表される寺内町も発展していたことは見のがせない。大坂は、のちに城下町として発展するが、その前身は本願寺の寺内町であった。武家領主の本拠のみを近世城下町の原型とすることはできない。

以上のことから、中世日本には、エ，と言える。近世には、新たに町が設定され、中世から続く都市も再編されたが、堺や博多<sup>(そ)</sup>に代表される対外交易の要となる国際的な港湾都市のあり方には、長崎<sup>(た)</sup>や近代の港湾都市との共通点が見出せるかもしれない。

〔C〕



図 I



図Ⅱ (図Ⅰの部分拡大)

図Ⅰ・Ⅱは、「パリ旧城壁地図(1180~1845)」(Plan des anciennes enceintes de Paris(1180-1845), 作者不詳, パリ・カルナヴァレ博物館所蔵)より作成。

図Ⅰは1937年に作成された版画で、パリに作られてきた城壁を描いたものの一部である。城壁の跡をたどると、パリの歴史そのものをたどることができる。この都市の魅力の一つは、都市をすべて作り変えるのではなく、いわば古い殻から脱皮していくように、各時代の都市計画に沿って進展してきたところにある。城壁に着目しながら、パリの歴史を振り返ろう。

セーヌ河に沿ってこの地に定着したのはケルト系のパリシイ人で、計画的な都市を建設したのは、ローマ人であった。セーヌ河の中洲であったシテ島を中心に、城壁はもたない計画都市を構築していた。ルテティアと呼ばれたこの町は、最初のゲルマン人が侵入する紀元253年まで繁栄した。

3世紀以降、12世紀にいたるまで、異民族侵入をはじめとする都市外部からの襲撃に、様々な形で対応してきたが、都市を囲む本格的な環状城壁を建設したのが、国王フィリップ2世であった。この城壁は、「フィリップ=オーギュストの壁」として知ら

れ、周囲約5.3キロメートル、高さ6メートル、厚さ3メートルの城壁に、6ヶ所の市門が設けられた。しかし、パリの成長は止まらず、英仏百年戦争の脅威は、新たな城壁の構築を促した。これが、「シャルル5世の壁」である。二重の水濠で守られており、1370年には東方にルーヴル宮と似た形のバステューユ要塞が建造された。

近世に入ってから城壁の拡張は止まらなかった。シャルル9世が着工し、ルイ13世が完成させた城壁は、図Ⅱにも描かれているように、外側に向かって突き出した角(稜堡)をもつのが特徴である。これは、オ ためであった。しかし、1670年に、パリの都市計画にとって画期的な出来事が生じた。時の国王が、シャルル5世とルイ13世の城壁の撤去を命じ、パリは、「開かれた町」となった。撤去された城壁の跡地に、幅36メートルの大通りが通り、両側には植樹がなされ(「グラン・ブルヴァール」大通り)、格好の散歩道となった。1784年から87年にかけて、再びパリは囲まれることとなったが、これは防御施設ではなく、税金を徴収するためのもので、高さ3.5メートル、長さ23キロメートルの柵であり、60ヶ所に関所が設けられた。(「徴税請負人の柵」)

1813年の カ 後、パリは陥落する。この外国軍による進駐の記憶は、防衛目的の城壁を再建する必要性を実感させた。1841年から1845年にかけて建設された「ティエールの壁」が、パリで作られた最後の城壁となる。この新城壁は、「徴税請負人の柵」より1～1.5キロメートルほど外側に設けられ、総延長39キロメートルで、城壁の94ヶ所に多角形の低い稜堡が設置されていた。ただし、パリの市域は、依然として「徴税請負人の柵」までで、その間の領域は、農地、菜園、牧地のままであった。この地域がパリ市に編入されるのは、1860年のことである。これ以降、普仏戦争やパリ・コミューンの混乱を経て、1919年4月に「ティエールの壁」は撤去されることが決まった。第三共和政期の1889年以降、第二次世界大戦後の1959年まで、パリは、城壁ではなく、万博会場や市庁舎の復元などモニュメントの整備に情熱を傾けた。現在、パリのシャルル・ド・ゴール空港から市内に入る際に必ず通る循環高速道路は、「ティエールの壁」の跡地で、パリと郊外を分離している。

問1 空欄  に入る文章として最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

- ① 絵具と金細工，ニス塗りによって装飾された高位の役人たちの邸宅や商店・倉庫が建ち並ぶ北京
- ② 城壁や城門，牌楼や宮殿ばかりが壮麗で堂々としており，商人や役人の住居は狭い裏通りに追いやられている都市
- ③ ウェストミンスターとサウスウォークを含めたロンドンの3分の1ほどしかない，衰退した北京
- ④ 城壁に囲まれ，内部は広い街路によって整然と区画された，中国の伝統的な計画都市
- ⑤ 東アジアの各地に見られる，ロンドンにくらべて街路は広いが，内部の居住区域が雑然とした都市

問2 下線部(き)のような，内陸部と海外を結ぶ川筋の合流点に築かれた都市が，海上交易を基盤として後背地となる内陸をも支配する国家へと成長することがある。シュリーヴィジャヤ王国やマラッカ(ムラカ)王国など，東南アジアに典型的に見られるこのような国家は何と呼ばれるか。次のうちから1つ選びなさい。

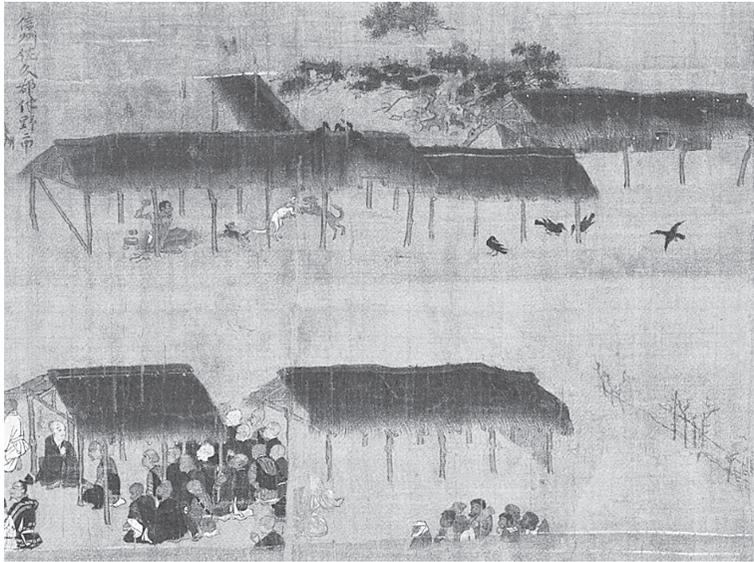
- ① 中継国家    ② 交易国家    ③ 港市国家    ④ 海港国家
- ⑤ 海辺国家

問3 [B]の文章に関連して、図Ⅲ・Ⅳは、どちらも1299年に制作された『一遍聖絵（一遍上人絵伝）』の一部で、図Ⅲは備前国福岡の市、図Ⅳは信濃国伴野の市を描いている。これを参考にして、空欄  に入る文章として最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

- ① 内陸部や山間部の交通の要衝に開設されることが多かったから、海浜部に位置することはなく、港湾都市ではない
- ② 武家の本拠に近い場所に成立することが多かったものの、そこに集まる商工業者は武家に従属していたわけではなかったから、城下町にはならない
- ③ 多くが常設の店舗すなわち見世棚の集合体であったから、商人・職人の所有権が強固に作用しており、自由な商業取引を原則とする楽市ではない
- ④ 寺内町や門前町において開設されることが多く、主催者も宗教者であったが、商工業者は必ずしも信者ではなく、市そのものは宗教都市ではない
- ⑤ 決まった市日にのみ開催される定期市であったから、市そのものは固定的な集落ではなく、都市ではない



図Ⅲ



図Ⅳ

問4 空欄  に入る文章として最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

- ① 御所や離宮を核として貴族が集住する宮都とすべきいくつかの大都市と、多数の宗教都市が存在した
- ② 古代の都城の残滓と近世の城下町の萌芽があるのみで、この時代に固有の都市の発展はみられなかった
- ③ 市から発展した交易都市の性格をもつ政治都市・宗教都市とすべき都市が存在するものの、自治都市はなかった
- ④ 都城と城下町以外の都市の類型が見えにくい、宗教都市とすべき多数の大都市が存在した
- ⑤ 政治都市あるいは宗教都市に分類できる少数の大都市と、交通・物流の結節点となる多数の中小都市が存在した

問5 空欄  に入る文章として最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

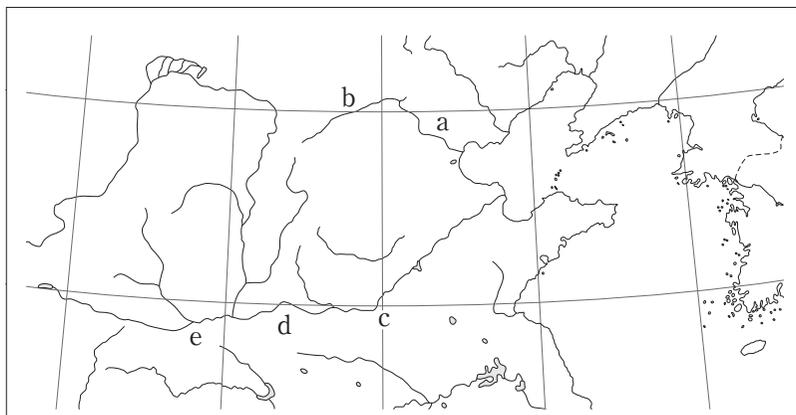
- ① 都市外からやってくる商人達に城壁を見せつけることで、脱税など不正を防止しようとした
- ② カルヴァン派からの宗教的な批判から、カトリック教会の司祭と礼拝を守る
- ③ 監視所と牢獄を設置し、犯罪者の処刑もおこなう
- ④ 特徴的な外観を工夫することで、市民の誇りとアイデンティティを確立する
- ⑤ この頃、命中精度や破壊力が高まった鉄砲や大砲が本格的に用いられるようになっていた

問6 以下の(1)～(9)のうちから5問を選んで答えなさい(6問以上選んだ場合は0点とする)。

(1) 空欄  に当てはまる人物の説明として最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

- ① 清の要求する三跪九叩頭の礼を拒否したため、皇帝への謁見は適わなかった。
- ② 坤輿万国全図を作成するなど、西洋の科学技術を紹介した。
- ③ 貿易改善を求めて現在の河北省承德市に位置する離宮で皇帝に謁見した。
- ④ 宮廷画家にとりたてられて、西洋画の技法を清朝へ伝えた。
- ⑤ 広西で違法な宣教活動をおこなったとして清朝の官憲に殺害された。

- (2) 下線部(イ)「平城・洛陽」のおよその位置について、正しい組み合わせを、次のうちから1つ選びなさい。



- ① 平城— a, 洛陽— c      ② 平城— a, 洛陽— d  
③ 平城— a, 洛陽— e      ④ 平城— b, 洛陽— c  
⑤ 平城— b, 洛陽— d      ⑥ 平城— b, 洛陽— e
- (3) 下線部(ウ)の実例の一つは、渤海の首都上京竜泉府である。渤海についての説明として誤っているものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。
- ① 渤海は、大祚榮が高句麗遺民と靺鞨人を統合して、7世紀末に建てた国である。
- ② 上京竜泉府の遺跡は、現在の黒竜江省寧安市にあり、遺跡内からは日本の和同開珎が出土している。
- ③ 渤海と日本の間で、親密な使節の往来がおこなわれたのは、両者ともに唐・新羅と対立関係にあったからである。
- ④ 来日した渤海使の多くは、都や大宰府に設置された鴻臚館で厚遇された。
- ⑤ 渤海は、内紛で国力が低下する中、10世紀前半に契丹に攻め込まれ滅亡した。

(4) 下線部(お)について説明した文章として最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

- ① アフリカ東海岸まで貿易ネットワークを広げていた。
- ② 蒲寿庚は天津を拠点として南海交易を独占した。
- ③ 三角帆のジャンク船とよばれる船を使い東シナ海でも活動した。
- ④ 中国最古のモスクである大清真寺を広州に建立した。
- ⑤ ウイグル・キプチャク人など一括して色目人と称された。

(5) 下線部(か)について説明した文章として正しい組み合わせを、次のうちから1つ選びなさい。

a 1976年に韓国の全羅南道新安郡沖で発見された沈没船に大量に積載されていた。

b 喫茶の風習が日本で広まると、天目茶碗と呼ばれて珍重された。

c その技術は、朝鮮半島にも伝播し、高麗のもとで発展を遂げた。

- ① a = 正, b = 正, c = 正      ② a = 誤, b = 誤, c = 正
- ③ a = 正, b = 誤, c = 正      ④ a = 正, b = 誤, c = 誤
- ⑤ a = 誤, b = 正, c = 正

(6) 以下の文章 a～e は、下線部(ニ)における出来事を説明したものである。これらを、時代順に正しくならべかえたものとして最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

a 皇親政治を推進していた長屋王が、讒言により、自邸を官兵に囲まれて自殺。その後、光明子が皇后となった。

b 天然痘が流行し、藤原不比等の子の武智麻呂・房前・宇合・麻呂らもあいついで病死した。

c 百万町歩開墾計画を立て、農民に食料・道具を支給し、10日間開墾に従事させ、良田を開こうとしたが、成果はあげられなかった。

d 京・畿内を中心とした地域の外では、稲や布などの物品による交易が一般的だったため、蓄銭叙位令を発し、銭貨の流通をめざした。

e 遣唐使とともに、玄昉や吉備真備・阿倍仲麻呂らが唐に渡った。

① e → d → a → c → b      ② d → e → b → a → c

③ e → d → a → b → c      ④ d → e → c → b → a

⑤ d → e → c → a → b

(7) 以下の文章 a～e は、下線部(き)に関する出来事を説明したものである。これらを、時代順に正しくならべかえたものとして最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

- a 宇多天皇は摂政・関白を置かず、菅原道真を重く用いたが、続く醍醐天皇の時、道真が女婿の齊世親王を即位させようとしているとの訴えがあり、道真は右大臣から大宰権帥に左遷され、そこで死去した。
- b 皇太子守平親王(のちの円融天皇)を廃位させ、為平親王を擁立する陰謀があるという源満仲らの密告により、橘繁延・藤原千晴が流罪に、為平の義父である左大臣源高明が大宰権帥に左遷された。
- c 朝堂院の正門である応天門が焼失し、左大臣源信に放火の嫌疑がかけられたが、大納言伴善男の所為であるとの告発があり、善男は遠流、紀夏井らも縁坐によって配流となり、善男は伊豆の配所で死去した。
- d 仁明天皇は淳和上皇の皇子恒貞親王を皇太子にしていたが、伴健岑・橘逸勢らによる皇太子を奉じて東国に赴こうとする謀反が発覚し、健岑・逸勢らは逮捕、流罪。恒貞は皇太子を廃され、仁明の皇子道康が立太子した。
- e 宇多天皇が即位にあたり、文章博士橘広相に太政大臣を関白とする勅書をつくらせたが、そこに「阿衡をもってその任となせ」との句があったのを、太政大臣家に仕える学者らが「阿衡には典職(具体的な職務)なし」と主張して問題化。天皇は勅書を撤回、書き直すことになった。

- ① e → d → a → c → b      ② d → c → e → a → b
- ③ e → d → a → b → c      ④ d → e → c → b → a
- ⑤ e → d → c → a → b

(8) 下線部(す)は、11世紀末から12世紀末までの約100年間、奥州藤原氏の本拠として繁栄した。この時期に制作された作品として誤っているものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

- ① 厳島神社所蔵の『平家納経』
- ② 四天王寺所蔵の『扇面古写経』
- ③ 宮内庁所蔵の『春日権現験記絵』
- ④ 高山寺所蔵の『鳥獣戯画』
- ⑤ 朝護孫子寺所蔵の『信貴山縁起絵巻』

(9) 下線部(つ)の説明として最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

- ① ブルボン朝を開いたが、国王に反感をもった修道士に暗殺された。
- ② フランスで最初に身分制議会である三部会を招集し、教皇庁をアヴィニヨンに移し、テンプル騎士団の財産を没収した。
- ③ 第6回十字軍に参加し、エジプトやチュニスを攻撃したが、遠征中に病死した。
- ④ イギリス王ジョンからフランス国内の領土を獲得したが、これ以降もイギリスは、16世紀まで大陸に拠点をもつこととなる。
- ⑤ カタリ派(アルビジョワ派)を制圧するために、北イタリアまで侵攻し、ローマ教皇を軟禁した。

問7 以下の(1)～(9)のうちから5問を選んで答えなさい(6問以上選んだ場合は0点とする)。

(1) 下線部(a)では、1901年に北清事変最終議定書、いわゆる北京議定書が調印された。この北京議定書とそれに関連する極東アジアの出来事について述べた文章として、誤っているものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

- ① 「扶清滅洋」を唱えて北京の列国公使館を包囲した義和団に、清国政府も同調して列国に宣戦を布告。日本・ロシア・イギリス・フランス・アメリカ・ドイツ・オーストリア・イタリアの8ヶ国は軍隊を派遣し、義和団を北京から追って清を降伏させた。
- ② 北清事変後、清が列国と結んだ北京議定書により、列国は清国政府に対し、巨額の賠償金や首都北京の公使館守備隊の北京駐留を承認させた。
- ③ 1937年7月、盧溝橋事件が勃発した当時、日本軍は北京郊外の盧溝橋の近くに駐屯して夜間演習をくりかえしていたが、この駐留は北京議定書の規定を法的根拠としていた。
- ④ 義和団事件に際して出兵したロシアは、中国東北部を事実上占領し、同地域における独占的権益を清国に承認させた。これは、日本の韓国における権益をおびやかす、日本政府はロシアとの協調政策を変更しはじめた。
- ⑤ 朝鮮では、王妃を殺害された国王高宗が日本公使館に逃れ、親日政権が成立していた。この政権は、ロシアに対抗する意味もあって、1897年、国号を大韓帝国(韓国)と改め、朝鮮国王も皇帝を名乗っていた。

(2) 下線部(し)に関連して、近世の京都における文化を説明した文章として、誤っているものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

- ① 渋川春海(安井算哲)は、土御門家に入門して、天文・暦学を学び、暦の誤差を修正して貞享暦をつくった。幕府は天文方を設けて、渋川をこれに任じた。
- ② 高い技術を用いた手工業生産が発達し、西陣では、金襴・緞子などの高級品が、高度な技術を用いる高機で独占的に織られた。
- ③ 尾形光琳が、俵屋宗達の装飾的な技法をとりいれ、『洛中洛外図巻』・『東照宮縁起絵巻』などを描き、その子孫は幕府の御用絵師となった。
- ④ 外来の儒学にあきたらない伊藤仁斎・東涯父子が、私塾古義堂を開き、孔子・孟子に直接立ち返ろうとする古学派の一流派を形成した。
- ⑤ 仁和寺の門前に窯を築いた野々村仁清は、上絵付法をもとに色絵を完成して京焼の祖となった。

(3) 下線部(せ)は、近世には「天下の台所」と称されるようになる。近世の大坂について説明した文章として、誤っているものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

- ① 西日本や日本海側の諸藩を中心に蔵屋敷を大坂において、領内の年貢米や特産物である蔵物を大坂に送り、蔵元・掛屋とよばれる商人を通じて販売し、貨幣の獲得につとめた。
- ② 1619年、江戸幕府は大坂を直轄地として、大坂城代および大坂町奉行を置いた。大坂城代は大坂城の守りと大坂在勤の役人の統率、西国大名の監視をおこなった。
- ③ 蔵物に対し、問屋・仲買・小売などの民間商人により直接売買される米その他の商品は納屋物と称された。大坂では、各地の納屋物も活発に取り引きされた。
- ④ 江戸・大坂間の荷物の安全、海損の共同保証、流通の独占をめざす大坂の多様な職種の問屋仲間は、江戸の二十四組問屋に対抗して、大坂に十組問屋を結成した。
- ⑤ 元禄年間に堂島新地に設けられた米市場は、大名の蔵米などの米取引を一手に扱った。そのほかにも、大坂には雑喉場の魚市場や天満の青物市場など卸売市場が発達し、都市の問屋・仲買と生産地とを結ぶ、経済の心臓部となった。

(4) 下線部(た)と深く関わる人物について説明した文章として、誤っているものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

- ① 江戸出身だが、幕府が長崎に設けた海軍伝習所でオランダ人から海軍の諸術を学び、遣米使節を送るため咸臨丸の艦長として日本人による初の太平洋横断に成功。幕府海軍創設に尽力し軍艦奉行に就任した。
- ② 陸奥国水沢出身の蘭学者・医者で、長崎でシーボルトの鳴滝塾に学び、江戸で開業した。渡辺崋山らと尚歯会を組織、開港論を唱えて投獄されたが脱走。医療・訳述に専念したが、幕吏に襲われて自殺した。
- ③ 上総国出身だが、幼少期に長崎留学を許され、オランダ人から西洋の暦学や測量術を学び、若くして幕府の命で蝦夷や日本全国の測量を始め、実地測量による「大日本沿海輿地全図」を作成した。
- ④ 長崎出身の兵学者・砲術家で、オランダ人に蘭学・兵学・砲術を学び、日本初の西洋砲術となる高島流を創始した。幕府に招かれ、江戸郊外の徳丸が原で実射訓練をおこない、ペリー来航後には講武所の砲術指南役となった。
- ⑤ 長崎出身の天文・地理学者で、宋学・天文暦算を学び、儒教的自然観と実証主義的立場を調和させ、漢洋の知識の折衷をはかり、晩年、徳川吉宗に仕えた。著書に『華夷通商考』がある。

- (5) 以下の文章は、下線部(ち)のひとつである横浜について説明したものである。文中の空欄に入る西暦年の組み合わせとして最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

日米修好通商条約において開港場とされた神奈川に港を建設する際、神奈川宿の一部として対岸の横浜村を港の建設地を選んだ幕府は、この地に開港場の建設を強行し、年、開港にこぎつけ、名を横浜町と改めた。以後、日本最大の貿易量を誇るとともに、外国文化の窓口となり、都市として成長するが、尊王攘夷運動の激化とともに外国人殺傷事件が続発するようになり、年には生麦事件がおきている。年に神奈川県が置かれると、同年神奈川県庁所在地となった。年には、汐留(現新橋)―横浜(現桜木町)間の鉄道も開通し、市街地は拡大していく。

- ① a = 1856   b = 1860   c = 1868   d = 1875  
② a = 1856   b = 1861   c = 1869   d = 1875  
③ a = 1857   b = 1861   c = 1870   d = 1874  
④ a = 1858   b = 1862   c = 1870   d = 1873  
⑤ a = 1859   b = 1862   c = 1868   d = 1872  
⑥ a = 1860   b = 1863   c = 1869   d = 1872

- (6) 下線部(と)の時期におこった出来事を時代順にならべたものとして最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

a ナント王令の廃止      b オランダ戦争      c 寛容法(イギリス)  
d 東インド会社の再建    e ユトレヒト条約

- ① b → a → c → e → d      ② b → c → d → e → a  
③ b → e → c → a → d      ④ d → b → e → a → c  
⑤ d → b → a → c → e      ⑥ d → b → e → c → a

(7) 下線部(な)の職務を務めたことのある自然科学者として名高いのがラヴォワジエであるが、かれと同時代の科学者として最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

- ① ジェンナー      ② ライプニッツ      ③ コルネイユ      ④ パスカル  
⑤ グロティウス

(8) 空欄 

カ
---

 に入る語として最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

- ① アウステルリッツの戦い(三帝会戦)      ② ロシア遠征  
③ ライプツィヒの戦い(諸国民戦争)      ④ ワーテルローの戦い  
⑤ スペイン反乱

(9) 下線部(に)に結ばれた北京条約で、ロシアが自国領とした地域として最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

- ① 沿海州      ② 樺太      ③ アラスカ      ④ 遼東半島  
⑤ 九竜半島南部

問8 以下の①～③のうちから2問を選んで答えなさい。(選んだ問題の番号をマークすること。)

① 下線部(え)で1523年に勃発した武力衝突について、下線部(そ)との関係も含めて、100字程度で説明しなさい。

② 20世紀末、下線部(く)の蔵書から北宋「天聖令」が発見された。同令には、唐代の令の一部が附されていたが、その中の「喪葬令」には、「京城の七里内は、葬埋してはいけない(諸去京城七里内、不得葬埋)」とする条文があり、日本の「養老令」の「皇都と道路の側近には葬埋してはいけない(凡皇都及道路側近、並不得葬埋)」が、唐令に由来することが再確認された。唐令・日本令ともに都城(京城・皇都)内部での埋葬を禁じていたわけだが、それはなぜか。都城内部での埋葬が禁じられた理由を100字程度で説明しなさい。

③ 下線部(て)について、100字程度で説明しなさい。

問9 以下の①・②のどちらか1問を選んで答えなさい。(選んだ問題の番号をマークすること。)

① [A]の文章で述べられているとおり、中国や中国に隣接する国々では、中国の伝統的な都市プラン＝都城をモデルにして首都がつくられ続けた。ところが、下線部(け)にあるように、10世紀以降の日本は都城を建設しなかった。日本で都城がつくれなくなった要因は何だったと考えられるか、150字程度で説明しなさい。

② 下線部(ぬ)の決定によって、パリ全体を守る城壁が撤去された。このことは、その後の歴史にどのような影響を及ぼしたと考えられるか、150字程度で説明しなさい。

問10 都市の多くは、災害にあい、そこから復興した歴史をもつ。被災し、復興した都市、あるいはその都市の有形・無形の文化遺産の実例を1つあげ、被災と復興の5W1H、すなわち when, where, who, what, why, how を200字程度で説明しなさい。なお、災害は、自然災害でも、戦争などの人災でもよい。

